

「緑色の水槽の生き物(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私はほとんど毎朝、職場の向かいにある喫茶店に寄っている。本来は8時からの営業なのだが、無理に6時半に開けてもらって、モーニングセットを作ってもらっている。有難いことである。



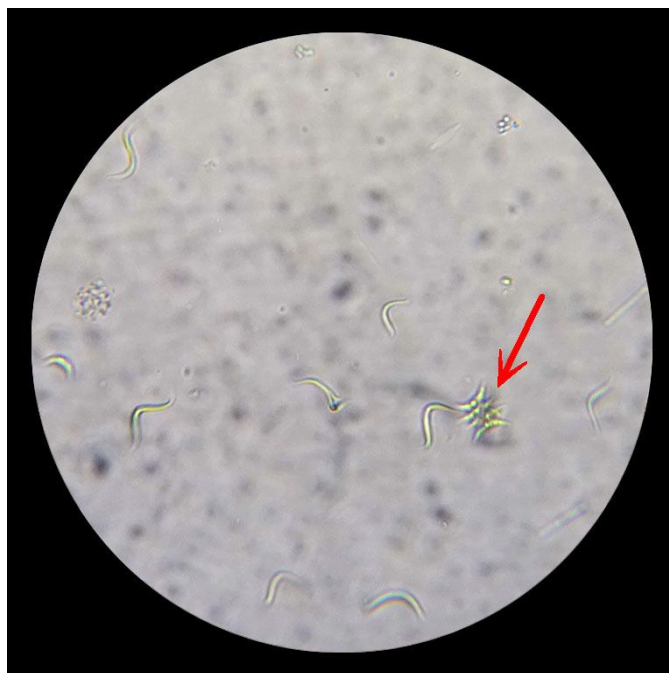
その喫茶店の店先に、水槽が置いてある。メダカを飼っていることになっているが、メダカの姿はめったに見えない。



水槽の水が完全に緑色になっている。水槽の壁にコケや藻が付着しているのではなく、水そのものが緑色をしているのだ。青汁か抹茶か或いは、クロレラの培養工場の水槽のようだ。時折水面近くに来たメダカが見えるが、「透明度」はせいぜい数センチといったところだろう。私はお店の人に容器をもらって、この水を理科室に持ち帰った。



水槽では濃い緑色だった水も、浅いタッパーに入れると、それほど濃い色には見えない。しかし水の色からして、植物性プランクトン(緑藻類)が大量に見つかるにちがいない。私は5年生の子どもたちと、さっそく顕微鏡観察してみた。



1滴の水の中に、大量の緑藻が存在していて、子どもでも簡単に見つけれられると思っていた。しかし結果はハズレで、私がさんざん探して、やっと数体のイカダモを発見したに過ぎなかった。子どもたちも少々がっかりした様子だった。

【子どものノートから】

「ビー玉(喫茶店の名称)の水そうの水は、水全体が緑色だったので、植物プランクトンがたくさんいると思っていました。でもほとんどなんにもいなくて、がっかりしました」

「1てきの水にはあんまりいない。少し放置して、プランクトンがしずむのを待てばいいと思う」